

臨床開発および医薬品情報のデジタル化

—Digital Transformation in Clinical Development and Product Information

DIAアジアミーティング2022が、第19回DIA日本年会2022前日の10月8日、東京ビッグサイト・オンラインハイブリッドで、「臨床開発および医薬品情報のデジタル化」—Digital Transformation in Clinical Development and Product Informationをテーマに開催される。プログラム委員長の齋藤宏暢氏（第一三共）は、デジタルトランスフォーメーション（DX）、デジタル活用の臨床試験効率化、市販後の安全性情報の三つをセッションテーマに設定したことを説明すると共に、DIAで重視されているディスカッションにより、今後の戦略に役立たれる生の情報を得てほしいとの考え方を示した。なお、アジアミーティング参加者には、翌日からの日本年会への参加も誘っている。齋藤氏はDIAアジアミーティング発足の経緯と役割、今年のプログラム概要を説明してもらった。

DXなど3テーマで議論 生の情報を今後の戦略に



そのため、日本とアジアの臨床試験における相関は、相互の経験を伝えられる上でのギア・アンド・データで実施する傾向に

に参加していた。日本は、シガボル、中国・香港、韓国では、欧米企業がアジアの

なって、フェーズIII

で臨床試験を実施して

いた頃で、グローバル

は違った。

一方、シンガポー

ル、中国・香港、韓国で

は、欧米企業がアシ

トで実施する傾向に

が成立したことか

DIAアジアミーティング'22

10月8日 東京ビッグサイト・オンライン開催

日本にとってたいへん興味深いセッションになるとと思っている」と俵本氏。また、特別講演①では、薬剤疫学の専門家である国立国際医療研究センターの石黒智恵子氏が、「ワクチンの副反応評価のためのデータ収集の重要性について話す」。

DIAアジアミーティング2022が、第19回DIA日本年会2022前日の10月8日、東京ビッグサイト・オンラインハイブリッドで、「臨床開発および医薬品情報のデジタル化」—Digital Transformation in Clinical Development and Product Informationをテーマに開催される。プログラム委員長の齋藤宏暢氏（第一三共）は、デジタルトランスフォーメーション（DX）、デジタル活用の臨床試験効率化、市販後の安全性情報の三つをセッションテーマに設定したことを説明すると共に、DIAで重視されているディスカッションにより、今後の戦略に役立たれる生の情報を得てほしいとの考え方を示した。なお、アジアミーティング参加者には、翌日からの日本年会への参加も誘っている。齋藤氏はDIAアジアミーティング発足の経緯と役割、今年のプログラム概要を説明してもらった。

DXなど3テーマで議論
生の情報を今後の戦略に

に参加していた。日本は、シガボル、中国・香港、韓国では、欧米企業がアシ

トで実施する傾向に

が成立したことか

が、アシ

トで実施する傾向に

が、アシ

トで実施する傾向に